また、障がい者の就労環境に関していえば、東久留米市に近い所では清瀬市に知的障がい者を支援するための東京都立清瀬特別支援学校（小学校、中学校）が、東久留米市に東京都立東久留米特別支援学校（高校）がありますが、生徒たちが支援学校を卒業し社会人になったとき、地元に働けるような場所があると、職場に通いやすい、地域になじみやすい、地域社会全体で見守りができ、支援ができるなど、障がい者の方々が自立した生活を送れるようにするための、よりより環境を整備できるようになるように思われます。

4.　地域振興、地域経済の活性化のために、海外の都市と姉妹都市になることで、東久留米市を国際的な都市にしましょう。

夏祭りの出し物といえば、最近、都内の多くの地域において、阿波踊り、よさこい踊りなど、特定の出し物に集中しているように思われます。主催者の側からすれば、なるたけ有名で、参加者に受け入れてもらいやすいものということで、選択が一定のものに収斂して来ることは理解できます。

アイルランドに、アイリッシュダンスという子どもから大人まで踊れる有名なダンスがあります。アイルランド人にとっては国民の習わしになっているともいうべきもので、男女とも小さい頃から習いはじめ、学校の高学年になると教科の一部にもなるようです。

アイルランドでは過去、大きな飢饉があり、自国で生活できなくなった多くの人々が移民としてアメリカに渡りました。映画「タイタニック」のなかで、タイタニック号の最下層の三等船室の乗客たちも、新天地を求めて乗船していたアイルランドの移民たちでした。アメリカに渡った移民のなかには、ジョン・F・ケネディ、ロナルド・レーガン、ビル・クリントン、バラク・オバマの祖先たちもいたそうです。

そのためか、アイリッシュミュージックには、日本人にも理解できる、何か物悲しい響きがあります。

このようなアイルランド、アイリッシュミュージック、アイリッシュダンスですが、アイリッシュダンスを、たとえば毎年の東久留米市市民みんなのまつりなどで、子どもたちが踊れるようにしたらどうでしょうか。

アイリッシュダンスは、日本ではまだまだ一般的ではありませんが、アイルランドからの移民とともに、現在ではアメリカ、イギリス、オーストラリアなどに広く普及しています。衣装も踊りも、子どもたち、特に女性に受け入れやすいもののように思われ、市内在住のアイルランド人に支援していただくなどして、阿波踊りの連のようにアイリッシュダンスのチームができると、市内の夏祭り等で一気に広がるように思われます。

そして、東久留米市にはアイルランドの首都ダブリンと姉妹都市になっていただき、アイルランドの3月17日の聖パトリックデーには東久留米市長にダブリンを訪ねていただき、11月の東久留米市市民みんなのまつりにはダブリン市長に来ていただきます。予算があれば、市長とともに両市の子どもたちが相互に訪問し合い、聖パトリックデー、東久留米市市民みんなのまつりで、互いにダンスの技量を披露し合うのもよいかもしれません。

こうして三多摩の一地方都市である東久留米市が、海外の都市と姉妹都市になることで、国際都市としての地歩を確実に固めていくことが期待できるようになります。

5.　がん治療の選択肢を増やし、あわせて保険給付費の低減を期待できるようにするために、多摩北部医療センターで、がんの光免疫療法を受けられるようにしましょう。

がんの光免疫療法（ひかりめんえきりょうほう）とは、米国立がん研究所（NCI）主任研究員（現在は関西医科大学にできた光免疫医学研究所の所長との兼務）の小林久隆先生が開発したがんの治療法で、近赤外線を照射することでがんを治療する、新しい治療法です。進行がん、再発がんでも、特殊な薬剤を点滴投与し、近赤外線を照射するだけなので、患者にやさしい、大変画期的な治療法といえます。

日本においては、「切除不能な局所進行又は局所再発の頭頸部癌（耳・鼻・喉・口・舌のがん）」に対する治療として2020年9月に承認され、保険診療として治療を受けることができます。現在はまだ、治療も保険診療も頭頸部のがんに限定されていますが、今後、頭頸部以外のがんにも適用されるようになることが期待されています。

東京都立多摩総合医療センターは、東京都が都立病院（8病院）と公社病院（6病院・東京都がん検診センター）を一体的に地方独立行政法人化し、令和4年7月、地方独立行政法人東京都立病院機構として組織化した病院の一つで、おなじ機構内に多摩北部医療センターがあります。東京都立病院機構では、現在、多摩総合医療センターでがんの光免疫療法を提供していますが、多摩北部医療センターもおなじ機構内の病院であることから、今後、多摩北部医療センターでもがんの光免疫療法を受けられるようになることが期待できます。

治療費については、光免疫療法の特許権を取得した楽天メディカル社のホームページに記載がなく、正確な金額はわかりませんが、他の方法による光免疫療法で自由診療のクリニックが6回の照射で1,815,000円という金額を提示していますので、おそらくはそのくらいの金額になるかと思います。尤も、楽天メディカル社と連携した医療機関では、治療が健康保険適用になり、高額療養費の制度も利用できますので、患者本人の負担は1か月100,000円前後になるということです。

今後、適用部位がさらに広がり、治療施設の数も増えて来ると、楽天メディカル社の企業努力と量産効果で治療費も徐々に下がるようになり、小林先生が開発したがんの光免疫療法が、健康保険組合や国民健康保険事業を運営している自治体の保険給付費支払の軽減に、好影響をもたらすようになることが期待されます。

徳田けんいち後援会　代表　徳田　賢一　（とくた　けんいち）
〒203-0032　東久留米市前沢2-9-3
TEL・FAX 042-474-1922　E-mail sdl@nifty.com　Web https://tokuta.net/